

むつ中間貯蔵施設への使用済み核燃料搬入を許さないために
使用済み核燃料搬入反対現地集会

2024年 **5月19日** (日) 午後1時

於：むつ来さまい館イベントホール

**中間貯蔵施設と最終貯蔵施設は同じこと！
行き先のない核のゴミ捨て場です！**

1基でも搬入されれば下北核廃棄物最終貯蔵のはじまりです



使用済み核燃料中間貯蔵施設を運営する「リサイクル燃料貯蔵(株)」が3月27日、青森県庁やむつ市役所を訪れ、2024年度から3年分の貯蔵計画を示しました。これによると事業開始時期を今年7～9月とし、使用済み核燃料容器を年度内に1基、翌年度に2基、翌々年度に5基の計8基を新潟県柏崎刈羽原子力発電所から運び入れるとのことです。

再処理事業は絶望的で行く先を持たないまま、この地に使用済み核燃料を搬入することは取りも直さず永久的に貯蔵されることとなることは必至です。また、この事業がスタートすることは全国の老朽化原発の再稼働に油を注ぐことになり、原発事故のリスクを一層大きなものとする事になります。

今こそ声を張り上げ搬入反対を叫びましょう！

【むつ中間貯蔵・使用済み核燃料搬入反対現地実行委員会】

【集会プログラム】

司会：佐々木 まき子
(現地実行委員会事務局)

■主催者代表あいさつ

使用済み核燃料搬入反対現地実行委員会 …………… 実行委員長 中 嶋 寿 樹

■基調提起

使用済み核燃料搬入反対現地実行委員会 …………… 事務局 長 栗 橋 伸 夫

■連帯のあいさつ

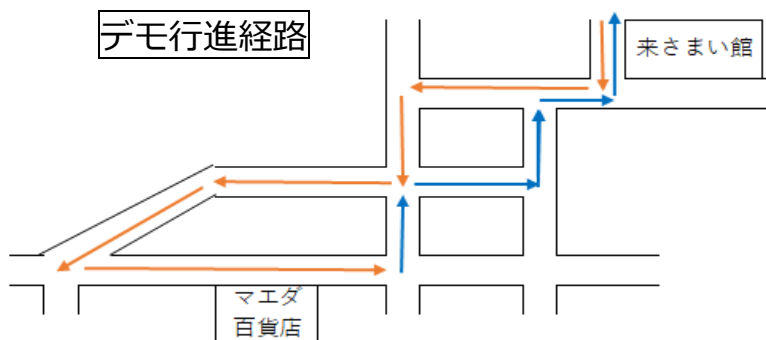
核のゴミから未来を守る青森県民の会 …………… 共 同 代 表 古 村 一 雄
核燃サイクル阻止 1 万人訴訟原告団 …………… 事 務 局 長 山 田 清 彦
柏崎刈羽市民ネットワーク …………… 代 表 星 野 幸 彦
(柏崎市議会議員)
柏崎刈羽原発反対地元三団体 …………… 代 表 武 本 和 幸
(刈羽村議会議員)

社会民主党青森県連合 …………… 代 表 今 村 修
日本共産党青森県委員会 …………… 青森県議団長 安 藤 はるみ
立憲民主党むつ下北支部 …………… 代 表 杉 浦 弘 樹

■集会宣言

■閉会あいさつ

使用済み核燃料搬入反対現地実行委員会 …………… 副実行委員長 櫛 部 孝 行



中間貯蔵が永久貯蔵に？

中間貯蔵の期間は50年だが…

50年後

◇六ヶ所再処理工場…閉鎖

◇第2再処理工場…無い？

◇高速増殖炉…無理！



えっ…中間じゃなかったの？

中間貯蔵後の使用済み核燃料の搬出先はどこにもありません

かつて事業者は住民説明会で保管期間終了後の使用済み核燃料は新設する「第2再処理工場」へ搬出すると述べていましたが、今や「第2再処理工場」はその構想すら政府のどの部署にも存在しません。もはや六ヶ所再処理工場完工すらおぼつかない中で膨大な費用を投入して第2工場を作ることはあり得ません。

すでに中間貯蔵施設の大前提であるはずの「核燃料サイクル計画」は破綻しています。

青森県議会では当局答弁で「海外搬出もありうるのではないか」などと迷走発言も飛び出しています。こうした状況でむつ中間貯蔵施設が使用済み核燃料を受け入れるならば、行く宛てのない「核のゴミ」を永久に私たちの故郷に放置することとなります。

子どもたちに美しいままの姿で故郷を残すことが私たちの責務ではないでしょうか。



【基調提起のポイント】

(1) むつ・下北地域が原子力半島となった経緯および中間貯蔵施設の概要

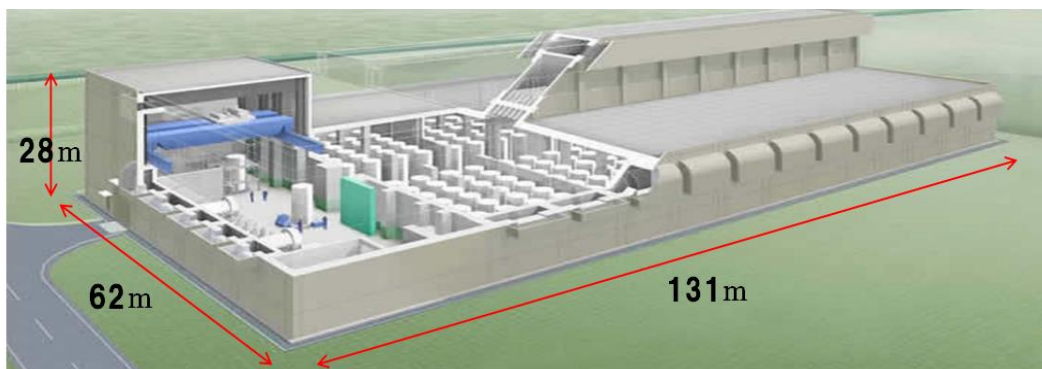
- ① 原子力と地域の関り
- ② 使用済み核燃料中間貯蔵施設について

(2) 中間貯蔵施設の具体化と反対運動の経過

- ① 施設誘致の経緯
- ② 反対行動の立ち上げ
- ③ 闘いの現状
- ④ 自治体、事業者の動き

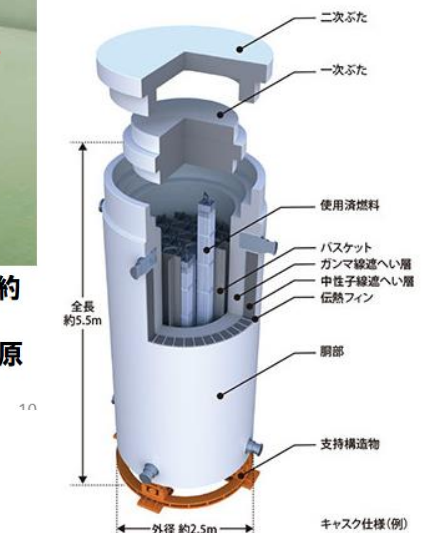
(3) 県民、市民に訴え続けている中間貯蔵施設の問題点

- ① 本施設が最終貯蔵施設へ変貌する危険性
- ② この施設が使用済み核燃料貯蔵の全電力会社の共同利用施設として運用される危険性
- ③ 林立する各種軍事施設と隣り合わせの原子力関連施設が持つリスク



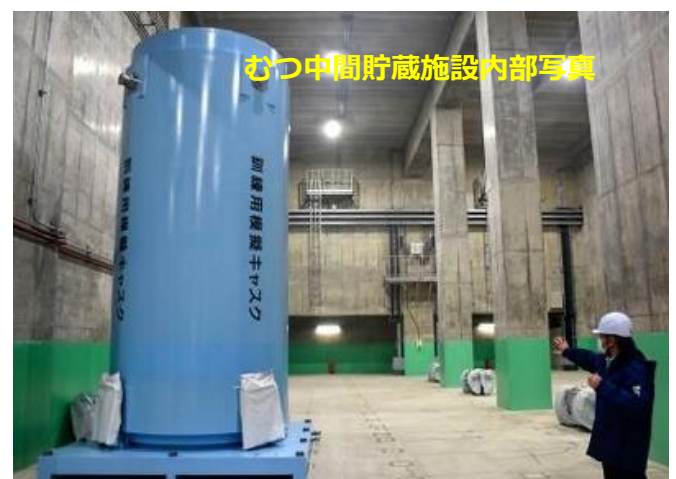
【操業開始直後の搬入計画】初年度に東京電力柏崎刈羽原発から最初のキャスク1基ウラン量約12トンを受け入れ、3年間で14基同約169トンとする計画(2016年届出)
 【搬入が軌道に乗れば】年間200～300トンを4回程度に分けて搬入する予定(東電4000トン、原電1000トン)

収納キャスクのイメージ



国内の使用済み燃料のキャパシティと貯蔵量(2018年:電事連調べ)

電力会社	原発名	管理容量	貯蔵量	貯蔵率
北海道電力	泊	1,020	400	39%
東北電力	女川	790	420	53%
	東通	440	100	23%
東京電力	福島第一	2,260	2,130	94%
	福島第二	1,360	1,120	82%
	柏崎刈羽	2,910	2,370	81%
中部電力	浜岡	1,300	1,130	87%
北陸電力	志賀	690	150	22%
関西電力	美浜	760	470	62%
	高浜	1,730	1,250	72%
	大飯	2,100	1,670	80%
中国電力	島根	680	460	68%
四国電力	伊方	1,080	710	66%
九州電力	玄海	1,130	910	81%
	川内	1,290	980	76%
日本原子力発電	敦賀	910	630	69%
	東海第二	440	370	84%
合 計		20,890	15,270	73%



操業に道筋も搬出先は

使用済み核燃料 行き場失う懸念大きく

リサイクル燃料貯蔵（RFS）が27日に貯蔵計画を示し、むつ市の使用済み核燃料中間貯蔵施設の事業開始に道筋が付いた。ただ、最長50年間保管した後の搬出先は決まっておらず、中間貯蔵施設が一端を担う核燃料サイクルは、要となる六ヶ所村の再処理工場がまだ稼働していない。運び込まれた使用済み核燃料が行き場を失う懸念は依然として大きい。

【1面に本記】

むつ中間貯蔵施設

青森県や市が中間貯蔵施設に入れた燃料は同村とは別の設の立地協定を締結した「第2再処理工場」に搬出は2005年。当初、受け取る計画だった。しかし、



事業開始時期が示されたむつ市の使用済み核燃料中間貯蔵施設。搬出先は決まっていない

東京電力福島第1原発事故後に第2再処理工場構想は宙に浮き、国のエネルギー基本計画からも消えた。現在、国が第2再処理工場に触れることはほとんどない。原発から出た使用済み核燃料を全て再処理する「全量再処理」をサイクルの基本政策に据えた上で、「搬出時に稼働している工場へ処理する」との説明に終始する。

一方、同村の再処理工場の稼働想定は40年。中間貯蔵施設で最長50年間保管した場合、搬出時には既に停止し、動いていないことになる。運転延長という選択肢もあるが、具体的な検討はされていない。

RFSの高橋泰成社長は

同日の取材で、同村の再処理工場への搬出について「可能性がないわけではない」としながらも、「具体的にどこに運ぶというのはない」と明言を避けた。も

とも再処理工場は完工延期を繰り返して、着工から30年を経ても完工していない。24年度上期（9月）の目標も達成は厳しい状況だ。再処理事業の遅れで、中間貯蔵事業との開始時期の

マスコミも搬出先に懸念を示しています

核燃料 搬出先は不透明

最長50年の保管期限後

搬入された時点で、保管期限のカウントダウンが始まる。しかし現時点で「保管期限後」を見据えた明確な搬出先は示されていない。

「中長期的な時間軸の中で調整がなされるものと理解している」。27日、宮下知事は

むつ市の中間貯蔵施設に早ければ7月にも、使用済み核燃料が初めて搬入される見通しが示された。中間貯蔵事業は最長50年間、5千トンを一時保管する計画。操業前の最終検査に用いる核燃料の入ったキャスク（貯蔵容器）1基が

は保管期限後について、「50年先には（保管量が）ゼロになる」と強調した。中間貯蔵する使用済み核燃料は、再処理されることが前提とされる。2005年策定の原子力政策大綱は、再処理能力を超えて生じる核燃料の

業期間の目安が40年のため、当初は搬出先として「第2工場」を模索する動きもあったが、今は白紙の状態。国も搬出時に稼働している再処理工場との表現にとどまっている。

（佐々木大輔）

これだけの金額で故郷は核のゴミ捨て場になるのでしょうか！

むつ市が今回の搬入計画で見込まれる核燃料税を3年間で最大7400万円としています。年間予算規模400億円のむつ市にとってどれくらいの恩恵なのでしょうか。

ちなみに2020年1月には宮下前市長は5年で93億円強という数値で市民に空虚なバラ色構想を提起、そして「希望のまちづくり・市民のつどい」なるイベントでこの大風呂敷を広げていたことは記憶に新しいところです。しかし、この大風呂敷は2年後にはいとも簡単に自らたたんでしまいました。

中間貯蔵施設稼働後、地域における経済メリットはこの「核燃新税」のみであり、他の経済効果のないことはむつ市も事業者も認めています。わずかこれだけの金額で後戻りできないことになるのでしょうか。

年 度	搬入量	税 額
初 年 度	12トン	744万円
2 年 目	24トン	2,230万円
3 年 目	60トン	5,952万円
3 年 計	96トン	8,926万円

※実際は搬入月などにより、これより少なく、むつ市では最大7,400万円としています。

規制委、サイクル先行きに一石

搬出先未定に問題提起

原子力規制委員会の更田

更田委員長は、2日の定例会見で、事実上の合格判断を下したRFSの使用済み核燃料中間貯蔵施設（むつ市）について、一般論と断った上で搬出先が未定のまま貯蔵が長期化することに對して懸念を示した。政策上の問題には直接踏み込まない形で言及したが、不透明感が漂う核燃料サイクルの先行きに一石を投じた形

記者会見する原子力規制委員会の更田委員長

11月2日、東京都港区



を収納する金属容器の）キャスクの許容年数に近づくような事態にならないか」と問題提起した。

「仮想的ではある」と前置きしつつ、具体策としては審査で60年間と評価したキャスクの耐用年数を参考に「年数に近づく物が増え、それがキャパシティ（施設容量）の多くを占めるようになってきたら、新たな物の搬入を許可しないなどさまざまな方策はあると思う」と例示した。「少し長いレンジ（範囲）で捉えておく必要がある」とも述べ、RFSの意向を確認する方針を示した。

一方、会見に先立つ定例会合で審査書案を了承したことに関しては「全ての対象に対して厳正に審査し、確実な結果を得た」と強調。約6年8カ月にわたる審査に「随分と時間がかかった」との認識を示し、説明資料の提出が度々遅れるなどしたRFSの対応に「後半の足が随分鈍った」と暗に批判した。（藤野武）

貯蔵後の行き場のないこと、キャスク耐用期限後や

トラブルの際の対応がないことを懸念し問題提起

道路寸断で避難計画以前の問題が露呈

能登半島地震では最大十日間も孤立状態、下北半島も同じです

本県は下北5市町村と六ヶ所村

3/9 東奥日報

建設中を含む国内19原発の30km圏にある自治体のうち本県など18道府県計109市町村で、地震など災害時の緊急輸送道路が土砂崩れなどにより寸断される恐れがあることが8日、分かった。30km圏に含まれる21道府県計138市町村の79%に当たり、原発事故時の避難に支障が出る恐れがある。東京電力福島第1原発事故から13年、国土交通省が公開している地理情報データを基に、道路が土砂災害警戒区域を横断しているかどうかを共同通信が分析した。

災害時 原発30km圏

1月の能登半島地震でも土砂災害が多数起き、北陸電力志賀原発（石川県）周辺の道路が通行できなくなった。各地の原発で再稼働が進む中、代替路の整備や、道路寸断も念頭に置いた避難計画、訓練の徹底が求められる。警戒区域は、がけの傾斜などに基づき、地震や豪雨で崖崩れや地滑りが起きるリスクのある場所を都道府県が指定する。

避難経路を事前に定める必要がある原発30km圏を調べた結果、国道、県道など109市町村で延べ約500本の緊急輸送道路が警戒区域を通っていた。多くの原発が半島部の山がちな地形に近接するなど、立地が影響してい



【搬出元とされる東京電力・柏崎刈羽原子力発電所って】

新潟県柏崎市と刈羽村にまたがる東京電力の原発です。東京ドーム 90 個分に相当する敷地内に 1 ～7 号機の七つの原子炉が並び、電気出力は計 821 万 2 千キロワットで、世界最大級の規模で、作った電気は首都圏に供給されています。福島第一原発の事故を受け、運転停止中です。

再稼働の準備が進んでいるのは 6、7 号機で規制委員会は 2017 年、6、7 号機が規制基準に適合することを認めています。1～5 号機は再稼働に向けた審査の申請がなされていません。ただ、集中立地を懸念する地元・柏崎市からの要請を受け、東電は 19 年に 6、7 号機を再稼働する代わり、それから 5 年以内に 1～5 基のうち最低 1 基の廃炉を検討する方針を示しています。

柏崎刈羽原発で最も古い 1 号機は、25 年 9 月に運転開始 40 年を迎えます。今後、古い原子炉の扱いも大きな課題となっています。

また、柏崎刈羽原発では 21 年にテロ対策の不備が相次いで発覚、東電社員が他人の ID カードを使って原発の心臓部である「中央制御室」に入っていたほか、侵入者の検知設備が 10 カ所で 30 日以上にわたって機能していなかったことが明らかになりました。こうした一連の不祥事に原子力規制委員会は 21 年 4 月、柏崎刈羽原発に核燃料の移動を禁じる是正措置命令を発出（昨年 12 月末解除）。

他にも原子炉格納容器内のひび割れなどについての自主点検記録を偽造する「トラブル隠し」が問題になりました。同様の問題は福島第一原発、福島第二原発でも明

らかになり、東電の安全に対する姿勢が問われています。

07 年の中越沖地震では想定を超える揺れに襲われて、3 号機の変圧器で火災が発生した。6 号機の使用済み燃料プールから放射性物質を含む水が漏れて海に流れるトラブルもありました。地震後に運転を停止した全 7 基のうち 4 基は一時運転を再開しましたが、2 ～4 号機は再開のめどが立たず 16 年間運転していない状態だ。不祥事のたびに再発防止策をとるのに、また大きな問題を起こす東電の体質といえます。

そして本年 1 月の能登半島地震により、住民の再稼働に対する不安や避難問題などであらためてそのリスクが突き付けられています。

《柏崎刈羽原発を巡る経過》

1985年9月	▶ 東京電力柏崎刈羽原発 1 号機が営業運転開始
2007年7月	▶ 新潟県中越沖地震。4 基が緊急停止。3 基は停止中
09年12月	▶ 7 号機が運転再開。以降 11 年 2 月までに計 4 基が運転再開
11年3月	▶ 東日本大震災、福島第 1 原発事故
8月	▶ 7 号機が定期検査に入り停止
12年3月	▶ 6 号機が定期検査に入り、全基停止
13年9月	▶ 東電が 6、7 号機の再稼働に向け原子力規制委員会に審査申請
17年12月	▶ 6、7 号機が規制委の審査に合格
21年1～3月	▶ テロ対策不備が相次いで発覚
4月	▶ 規制委が事実上の運転禁止命令
23年12月	▶ 改善が確認できたとして規制委が運転禁止命令を解除
24年3月18日	▶ 斎藤健経済産業相が花角英世新潟県知事に再稼働同意を要請
4月15日	▶ 規制委が 7 号機の核燃料装填を承認。東電が装填開始



全国から本集会について連帯、激励のメッセージが届いています

今、むつ中間貯蔵施設への使用済み核燃料の搬入開始は全国
の大きな課題になっています。下北半島が「核のゴミ捨て場」
となることはもとより、このことが全国の老朽化原発の再稼働・
延命につながることに他なりません。

多くの脱原発住民団体から連帯のメッセージが届きました。
5月14日時点での到着分を掲載しました。



若狭・小浜からのメッセージ

原発設置反対小浜市民の会（世話人代表）中嶋哲演

「使用済み核燃料搬入反対現地集会」に結集された
みなさんに、心から連帯の挨拶を送ります。

わたしたち小浜市民は、1970、80年代に関西電力
による小浜原発の設置計画を3度阻止してきました。
また2000年代に入ってから2度、同社の使用済み核
燃料中間貯蔵施設の設置計画も有権者過半数の署名
や市長選挙などで阻止してまいりました。その中間貯
蔵施設の反対運動に県外から寄せられた市民の方々
の声をぜひ紹介しておきましょう。（2004年4月「は
とぽっぽ通信」第141号より）

・青森県むつ市のIさんから―「中間貯蔵施設」
誘致の請願を採択しないで下さい。ひとたび受け入れ
たら「核のゴミ捨て場」となってしまうでしょう。使
用済み核燃料は、全国すべての人たちの問題です。一
地域が引き受けるべきものではありません。増え続け
る「ゴミ」を断つには原発を止めなくてはなりません。
誘致することなく原発運転を中止にして、根本的な解
決を目指してください。

・大阪府豊中市のKさんから―使用済み（核燃料）
が、ひとたび運び込まれたら、それを振り出しに戻し
て撤去させることは非常に困難になるでしょう。核の
ごみは全国で受け入れを拒否されています。是非皆様

で「使用済み核燃料」がどのようなものであるかを検
証して下さいませ。

・兵庫県尼崎市のSさんから―本来、この中間貯
蔵施設建設問題は、生産者である関西電力が責任をも
ち対処すべき事柄であり、又、電力受益者負担の原則
からみまして大都市部に集中する大企業、私ども大都
市消費者の問題であります。

すでにこのように本質的な指摘が行われていま
したが、原子力資料情報室が出された最新のパンフレ
ットの末尾「犠牲のシステム」の一節を紹介します。

―「導入時から原発は危険施設だということが分か
っていたので、人口の少ない地域に建設されてきまし
た。そこで発電した電力を都市部におくり続けてきた
のです。原発が身近にない都市の市民こそ、向き合わ
なければならない現実です。」この延長上に、使用済み
核燃料とその貯蔵の押し付け問題があります。

最後に、冒頭に述べた中間貯蔵施設を阻止した際
の小浜市民の決意表明を、本日お集りのみなさんとも
共有いたしたく思います。

―「核のゴミ誘致許さじ然（さ）はあれど他所（よ
そ）ならよきやと人の問うあり」

（小浜市民の会世話人・松本浩さん）

合掌

使用済み核燃料の発生源・原発の即時廃止を！

若狭の原発を考える会・木原壮林

原発で核燃料を一定期間燃焼させると、新燃料と交
換せざるを得なくなり、使用済み核燃料が発生します。
使用済み核燃料は、発生直後には膨大な放射線と熱を
発しますから、燃料プールに水冷保管して、放射線と
発熱の減少を待たなければなりません。そのプールが、
今、満杯になろうとしています。プールが満杯になれば、
原発を運転できなくなります。

そのため、電力会社と政府は、放射線量や発熱が減
少した燃料をプールから取り出し、乾式貯蔵に移して、
プールに空きを作ることに躍起です。

なお、燃料プールは極めて脆弱です。空いたプール

に発熱量や放射線量が膨大な新しい使用済み核燃料
を入れ、そのプールが倒壊すれば、大惨事に至ります。

一方、電力会社と政府は、乾式貯蔵に移した使用済
み核燃料を、青森などの中間貯蔵候補地に搬出しよう
としています。東電、関電などの原発電気を消費した
ことも、作ったこともない青森に、交付金をちらつか
せて、中間貯蔵を押付けることを許してはなりません。

まず、危険極まりなく、何万年も先の子孫にまで負
の遺産となる使用済み核燃料の発生源・原発を全廃し、
使用済み核燃料の処理・処分に關する広範な議論を巻
き起こしましょう！

連帯のメッセージ

原発さよなら四国ネットワーク 井出久司

あの震災による福島での過酷事故にも拘わらず自民党政権は再び原発推進に舵を切った。そして事故の当事者である東電は柏崎刈羽原発の再稼働を目論み、核燃料廃棄物をむつに向けて搬出しようとしている。これは天人共に赦すべからざる暴挙に他ならず、断固これを糾弾し反対する。

そもそも青森県は原子力のゆりかごから墓場までもいうべき様々な施設が存在する。カネと権力によって青森県民に強権的に押しつけている、例えような非倫理的な現状は南の沖縄に匹敵する差別に他ならない！ この現実の打破に固い連帯と共闘の意を表明する。

また、核とあらゆる生命体は共存できない。真理に

反する、全ての原発の再稼働に反対する。

特に福島事故の当事者であり、事故の収束はおろか未だ原因の究明も被災者の救済もできない東電に、再び原子力を扱う資格も能力もないことは明らかであり、柏崎刈羽原発の再稼働など論外、直ちに廃炉しかない。

従って、全ての原発に反対する者、並びに全ての生命の声なき声を背負い、核燃料廃棄物のむつへの搬入反対、柏崎刈羽原発の再稼働反対、全ての原発を廃炉にせよ！ の声を挙げ、この集会に反する連帯、賛同メッセージとする。共に核なき世界を勝ち取るまで闘おう！

「5.19 使用済み核燃料搬入反対現地集会」参加のみなさまへ

函館・「下北」から核を考える会 大場一雄

当日は、函館市で「バイバイ大間原発はこだてウォーク」が予定されており、むつ市まで行くことができません。申し訳ありません。

使用済み核燃料の検査用キャスク1基の「むつ中間貯蔵施設」への搬入が今年の7～9月に予定と報道されていますが、1基目の搬入を許せばそのまま「最終貯蔵施設」になりかねません。宮下青森県知事は3月に「50年先には（保管量が）ゼロになる」と発言していますが、根拠も保証もありません。

持ち出し先の目処は全くたっていないのです。

中間貯蔵施設の建つむつ市関根浜は、津軽海峡をはさんで函館市の対岸です。大間原発と同様に、災害や事故が起これば函館市にも被害が及ぶ可能性があります。また、輸送の往来は、函館港への緊急入港も考慮しなければならないと思います。事業者には、これからは函館市民や函館市への「住民説明会」を求めていきたいと思います。

「5.19 使用済み核燃料搬入反対現地集会」へのメッセージ

東海第二原発の再稼働を止める会 披田信一郎

東京電力と日本原電とで建設されていた「むつ中間貯蔵施設」を稼働させる、この度の使用済み核燃料の搬入に、青森県の皆さんに連帯して反対します。

東京電力は、福島事故の反省もなく、柏崎刈羽原発の再稼働を強行させようとしていること自体、そして、そのためであるとともに今後の原発維持・推進に向けて、最終処分の方策も棚上げのまま、中間貯蔵という名のごまかし政策で、新たな使用済み核燃料と言う「核のゴミ」を作り続けていく悪魔の道へ踏み込もうとすることであり、許すわけにはいきません。

東海村での再処理施設 40 年の経験からも、六ヶ所再処理施設の稼働の危険性、そして使用済み核燃料、再処理して分離される高レベル放射性廃液やガラス固化体など、原発の稼働以上に問題を残すものだと考えています。

あらゆる形態での「核のゴミ」をこれ以上作らせず、移動させず、青森に持ち込んで押し付けさせず、原発の全面廃止に向けて、ともにたたかうことこそ、私たちの課題だと思います。共にたたかい抜きましょう。



関西電力が国内最古と2番目に古い高浜原発1、2号機（福井県）を2023年7月以降それぞれ再稼働させました。事故リスクの高い老朽原発への依存がさらに進んでいます。中間貯蔵施設の稼働はこうした原発の延命策に他なりません。

**東京電力は柏崎刈羽再稼働やめよ。青森へ使用済み核燃料送るな！
東京で東電本店へ唯一の行動＝毎月の合同行動が 128 回（11 年間）**

たんぽぽ舎 柳田眞、佐々木敏彦

●東京電力は柏崎刈羽原発の再稼働やめよ！ 青森へ使用済み核燃料を送るな！

毎月 1 回（第 1 水曜）、東京千代田区の東京電力本店前で、申し入れ書の手渡しと抗議行動をしている東電本店合同抗議です。2013 年に行動を始めて、毎月第 1 水曜日で今年 5 月で 11 年間 128 回です。

1000 万人をこえる巨大都市東京で、もっともっと東電本店行動を実行する団体・グループ・人々がふえていいと思う。私たちの行動も、3.11 のときには 400

名をこえるが、ふだんは 60～80 名だ。もっと参加してほしい。

●私たちのスローガン

- ・ 柏崎刈羽原発の再稼働反対！
- ・ 青森へ使用済み核燃料を送るな！
- ・ 海に汚染水を流すな！
- ・ 日本原電へ 2200 億円の資金提供をやめよ。赤字倒産したらどうする？

下北半島を「核のゴミ捨て場」にさせないために共に闘うアピール

女川原発再稼働差止訴訟原告団 日野正美

女川原発再稼働差止訴訟原告団から、「むつ中間貯蔵施設」への使用済み核燃料搬入を許さないために日夜ご奮闘している現地むつを始め、青森県民のみな様に敬意を表し、下北半島を「核のゴミ捨て場」にさせないために共に闘うアピールを送ります。

私たちの再稼働差止訴訟は、東北電力を相手取り「避難計画の実効性」に争点を絞っての裁判です。一審の仙台地裁は、避難計画の実効性に踏み込まず「原発事故が起きる具体的危険性の立証責任は原告側にある」として門前払いの判決でした。現在控訴審を闘っていますが、仙台高裁は、「実効性について審理を行う」として審理が進んでいます。9 月再稼働前の判決を避けたい東北電力の引き延ばしで再稼働前判決が厳しくなっています。

再稼働を前にして東北電力は、「乾式貯蔵施設」を敷地内に建設するとして規制委員会に申請しています。

2 号機の使用済み核燃料プールを空け「乾式貯蔵施設」に移し、再稼働に備えるためです。

「核のゴミ」は、行き場がありません。「むつ中間貯蔵施設」が「最終貯蔵施設」として押しつけられようとしている様に、「乾式貯蔵施設」を認めることは、再稼働を容認し、原発敷地内が永久に「核のゴミ捨て場」にされることを認めることになります。

施設建設には、「地元同意」が必要です。私たちは裁判とともに立地自治体や宮城県に対して「同意するな！」とする新たな取り組みを県内の皆さんとともに始めようとしています。

核のゴミ捨て場にさせないためには、全国の原発再稼働を許さないことです。

「5.19 使用済み核燃料搬入反対現地集会」の成功を祈念します。搬入阻止に向け共に闘っていきましょう！

地震大国日本で原発の再稼働も中間貯蔵施設も許さない！

島根原発 2 号機運転差止仮処分申立人 芦原康江

1 月 1 日に起きた能登半島地震は、改めて「地震大国」と言われる日本で原発を稼働させることに警告を発したと強く感じます。それは、稼働させてしまった後に発生する核のゴミの処分に対する大きなリスクが存在することも示しています。

核燃料サイクルの肝でもある再処理工場自体の稼働すら見通せない状態の中、青森県むつ市の「使用済み核燃料中間貯蔵施設」は 7 月にも操業開始し、柏崎刈羽原発の使用済み核燃料の搬入が計画されていると聞きます。このままでは「中間貯蔵」は「永久貯蔵」になってしまいます。強引な操業開始

に、島根からも強く抗議したいと思います。

私たちの町の島根原発 2 号機の再稼働を進めようとしている中国電力は、8 月再稼働を 12 月に延期すると、衆議院補欠選挙で自民が敗北した翌日、突如として発表しました。産業界への利益誘導しか考えなかった自民党政治に、有権者が下した結果が少しでもブレーキになることを期待し、皆様と共に原発再稼働も中間貯蔵施設操業も絶対に止めていきたいと思っています。

住民の命や暮らしを無視する原子力政策に NO を突きつけましょう。

鹿児島からのメッセージ

ストップ川内原発！ 3.11 鹿児島実行委員会 共同代表 向原祥隆

5月19日、使用済み核燃料搬入反対現地集会に参加された皆さん、鹿児島からご挨拶申し上げます。川内原発1、2号は、まもなく設計寿命の40年を迎えます。紛れもない老朽原発です。にもかかわらず、九州電力と塩田康一県知事はさらに20年の延長を目指しています。鹿児島の反原発は昨年、県民投票条例直接請求署名を実施しました。地方自治法74条に基づくこの署名運動は空前の広がりを見せ、法定数の2万7000筆を大幅に上回る4万6112筆を達成しました。県議会で否決されましたが、これが鹿児島県民の

意思です。

震度7を記録した能登半島地震では、志賀原発が運転中であつたら、そして2003年に白紙になった珠洲原発が稼働していたなら、国の存亡を左右する大惨事となつたでしょう。

危険な原発を稼働させ、捨て場のない使用済み燃料を増やすのは、人類の正義に反する行為です。原発の延命を図るために中間貯蔵施設を稼働させるなどあってはならない悪行だと言えるでしょう。共に闘いましょう。

むつへの搬入反対！ これ以上核のゴミを増やすな

みやぎ脱原発・風の会 舘脇章宏

むつ中間貯蔵施設構想は核燃料サイクルの破綻の象徴だと思いますが、ついに搬入計画が示されたことに怒りを感じます。女川原発では1号機は廃炉が進み、様々なレベルの核のゴミの処分をどうするかが課題ですが、東北電力は全く説明していません。一方、再稼働がこの9月に予定されている2号機では、使用済み核燃料の乾式貯蔵計画が発表されました。東北電力の説明では「再稼働から4年程度で貯蔵容量の上限に達することから、使用済燃料を発電所から搬出するまでの間、一時的に貯蔵する施設として」設置しており、再処理工場の稼働がままならないなかで、

まさに原発稼働のための乾式貯蔵計画です。私たちは9月の女川2号機再稼働とともに、この乾式貯蔵計画にも反対し、女川原発を終わらせるためみなさんとともに取り組んでいきたいと思っています。1000人が参加した3月23日仙台での全国集会に続き、7月7日には現地女川で青木美希さんの講演とデモが予定されています。一方で大崎市では福島原発事故由来の放射性汚染廃棄物の焼却をめぐる裁判がおこされ、6月6日には控訴審判決が下されます。処理できない放射性廃棄物を抱え込む原発を止めることは未来世代への責任です。

連帯メッセージ

伊方から原発をなくす会 名出真一

使用済み核燃料搬入反対現地集会にお集まりのみなさんに連帯のメッセージを送らせていただきます。

今年1月に起こった能登半島地震は私達に原発建設計画の杜撰さと、地震が起きた時には避難できないという事をまざまざと見せつけました。

伊方原発は日本で最も細長い佐田岬半島の付け根にあり、事故が起きれば原発から先の5000人の住民は避難することはできません。また、急な斜面にへばりつくようにある集落では、屋内退避など絵に描いた餅にすらなりません。放射能に侵されるか、家屋に押し潰されるかの死の選択が迫られます。四国電力は満杯になろうとしている使用済み核燃料プールを空け

るために、2025年から乾式貯蔵施設を稼働させようとしています。当然のことながらプールを空けなければ原発を動かすことができなくなるからですが、名目は六ヶ所再処理工場に送るまでの中間貯蔵です。動く目処もたっていない。動かす膨大な放射能を出す。そしてその先の最終処分場については解決策がまったく見えていない状況です。

危険を指摘する多くの声には耳を貸さず、事故が起これば想定外と開きなおる。その結果が東京福島第一原発事故です。こんな事をいつまでも許すことはできません。私達は搬出を阻止する事で青森の闘いと連帯します。

電事連はいまだ、むつ施設共用化を狙っています！

青森県やむつ市は東京電力、日本原電以外からの搬入はあり得ないとしています。しかし、電事連会長はあらゆる場面でこの施設の2社以外の搬入をほのめかしています。今、喫緊の課題は関西電力の核のゴミの搬出先なのです。



むつへの連帯メッセージ

核のごみキャンペーン関西 / はんげんぱつ新聞編集長 末田一秀

高浜原発の使用済み燃料プールがあと4年で満杯になる関西電力は、長年原発計画を止めてきた山口県上関で中国電力とともに中間貯蔵施設の調査に乗り出したり、若狭の原発現地内で乾式貯蔵施設を計画しながら敷地全体の貯蔵容量を増やさないと見え透いた嘘をついたりしています。

私たちは、中間貯蔵などの計画を止めれば、再稼働してしまった原発が、文字通り「フン詰まり」で停止すると、この間の取組みを行っています。中間貯蔵は、核燃料サイクルの破綻を隠す、究極の問題

の先送り施策だと訴えてきました。貯蔵後に運び出す先を誰一人具体的に説明することができないまま、中間貯蔵の計画を推し進めたり、むつで操業を開始しようとしたりすることは無責任の極みです。

私たちの主張こそ、正論であり、正義があり、世代間倫理にかなったものです。そうであれば、敗れるはずはありません。

むつで操業中止を勝ち取り、関西の地では「フン詰まり」に追い込んで原発停止を勝ち取れるよう、共に頑張りましょう。

むつ中間貯蔵施設への使用済み核燃料搬入阻止現地集会へのメッセージ

志賀原発の廃炉を求める「命のネットワーク」 藤岡彰弘

下北半島の地で果敢に使用済み核燃料の搬入阻止に取り組む皆さんに、能登半島の原発廃炉を求める者から連帯のメッセージを送ります。

先ごろの能登半島地震によって、原発と地震の被害が合わされば、半島の住民には逃げ場が無くなり、深刻な被曝を余儀なくされてしまうことが明らかになりました。政府/電力会社はそれでも志賀原発を動かすと嘯いています。

そして今、柏崎原発再稼働をめぐる不安や不信が高まり続ける中、とにかく下北半島へ使用済み核燃料を持ち込む実例を作ってしまうと、下北の人々の「声」を踏みにじって突き進んでいます。半島はどん

詰まりの過疎地なのだから本気で住民の声など聴かなくていい、切り捨てて当然だとでも言うのでしょうか？とんでもない！

広い海に向かって突き出た半島こそ、海を隔てた諸地域との交流・交信を深めた歴史を築いてきたところであり、未来を拓く可能性を持つところなのです。半島に核を押し付け、人々の暮らしを切り捨てようとする日本国政府の露骨なまでに内向きな姿勢は、半島で抗う者たちの果敢な取り組みによってきつとくじかれていく。細々とした運動を続けているだけの私たちですが、その思いだけは皆さんと通じていると思っています。ともに前へ！進んでいきましょう。

核廃棄物「増産」の即時中止が急務

佐賀大学名誉教授 豊島耕一

むつ現地集会にお集まりの皆さまに連帯のご挨拶を送ります。使用済み燃料をめぐるのは、実は、こちら佐賀の玄海原発でも、立地の玄海町長が「文献調査」の受け入れをつい11日に表明、国内で稼働する数少ない原発を抱えると共に、地域にさらに難儀が降りかかっています。先月15日に町議会への「請願書」の動きが報じられてから、ひと月も経たない急展開です。

文献調査を受け入れると最大20億円もの「交付金」がもらえますが、その調査にかかる費用ならともかく、経産省によると「地域振興、公共施設整備、医療・福祉サービス等に活用でき」る、つまりあからさまなバラマキの掴みガネです。まさに「札束で頬を引っぱたく」おぞましいやり口です。

最初の報道からまもなく始まった反対署名がわずか4日間で全国から1万579筆も集まり、また市民有志で行った町民電話アンケートでも、回答者114人

のうち7割強が反対、住民による「請願」などごく一部の人に過ぎないことが分かります。そして9日には、この数日間で動き出した「核のごみ」問題の「九州議員ネットワーク」は125人もの議員の反対署名を町長に届けました。

地質学は専門でない私ですが、どこを掘っても温泉が出るような国土に、数万年も安定に貯蔵できる地層などあるとは思えません。地中処分の方針そのものを見直し、またそれ以前に核廃棄物「増産」の即時中止が必要です。

かつて大飯原発再稼働阻止で行われた道路封鎖のような、祝祭性と手応えで参加者が自らをエンパワーでき、さらにメディア露出も得られる非暴力直接行動のような戦術も再開するなど、あらゆる方法で暴政を止めましょう。

使用済核燃料をむつ中間貯蔵施設に搬入に反対している皆さんに北海道泊原発の地から

岩内原発問題研究会 佐藤英行

末期的様相を呈してきた自民党岸田内閣は、これまで、原発政策において、原発の運転再稼働をめざしてきた。再処理の見込みが絶望的であるのにそれを見ず、使用済み核燃料をむつ中間貯蔵施設に集めようとしている。地域の疲弊に刺さりこんで核ゴミ最終処分場の設定へと猛進している。これほど無策な原子力政策は子々孫々にわたり負荷をかけることであり、直ちに原発の運転を止め、後に残った核燃料をどうするかを考えるべきである。今以上の使用済み核燃料を増やし

てはならない。

使用済み核燃料の再処理に向けて中間貯蔵をするということは、見込みのない再処理にむけた使用済み核燃料の貯蔵は、最終貯蔵になることになる。

私たちはそれを許してはならない。見込みのない行き当たりばったりの原子力政策は金で人心を惑わせ、地域を破壊する政策の何物でもない。

未来を創るのは私たちである。共に戦おう。

使用済み核燃料搬入反対現地集会へのメッセージ

サヨナラ原発福井ネットワーク・若泉政人

岸田内閣が福島原発事故の教訓に向き合うことなく、原発推進にアクセルを踏み続けていることに怒りを覚えます。福井でも、使用済み核燃料の問題は原発再稼働を左右するということが、一般の人たちにも認識されるようになってきました。

今年3月、福井県は、関西電力が県に了解を求めた原発の敷地内の乾式貯蔵施設建設を了解しました。しかし、その後、関西電力が野党系会派の説明会で、中間貯蔵施設や青森県六ヶ所村の再処理工場が稼働しなかった場合、使用済み核燃料は「どこにも持って行けなくなる」などと発言していたことを朝日新聞(3/12)が報じました。これが関西電力の本音です。また関西電力は、乾式貯蔵のため、使用済燃料が使用

済燃料プールから取り出されて空いた分を使用しないと説明していますが、これまでの福井県との中間貯蔵施設建設の約束等の反故もあり、到底信用できません。県議会でも核燃料サイクル全体の破綻も指摘されましたが、「乾式貯蔵の安全性」という矮小化した議論の流れもあります。

見えにくいこの使用済み核燃料の問題を、山崎隆敏さんが主となって新聞折込みチラシにまとめ、配付する活動も当会でを行っています。

原発設置している福井からは、これ以上使用済核燃料を生み出さないことを訴え、青森との連帯した動きをとっていきます。

下北・中間貯蔵施設の将来

ルポライター(弘前市出身) 鎌田慧

青森県下北半島の原子力化は、原子力船「むつ」の受け入れからはじまった。かつての「軍港」大湊が、核開発の「母港」とされたのだ。「むつ」は陸奥湾から太平洋上に出てまもなく、放射能漏れ事故を起こして漂流。とどのつまりは、母港には帰れず、急遽開港された、専用の関根浜港に寄留したあと、廃船となった。

その後、下北半島の六ヶ所村にウラン濃縮工場と核燃料再処理工場とMOX工場が建設された。ウラン濃縮工場は昨年8月、6年ぶりに運転再開されたが、5月不具合が見つかり、また元の木阿弥、運転停止。MOX工場の完成はほど遠い。肝心の再処理工場は、1993年4月に着工したが、未だ試運転さえ成功していな

い。つまりは絶望的だ。

そして中間貯蔵所。東電と日本原電が出資した会社だが、「中間」は中途半端だとして「リサイクル燃料貯蔵」を社名にした。再処理工場へ燃料を売り渡す。巨大な金属キャスクに最も危険な使用済み核燃料を入れて、新潟県柏崎・刈羽原発から運んでくるという。

2010年操業開始が目標だったが、今年7月から9月にかけて大型金属容器「キャスク」で運ぶ、という。最終貯蔵目標5000トン。そのあとどうするか、どこへ運ぶのか。誰も知らない。「夢の増殖炉もんじゅ」は廃炉。再処理の夢もまた夢。誰も責任を取らない原子力政策のツケは、青森県にのしかかる。

**わが国の原子力政策は失敗、事故、約束違反の連続
もはや国も事業者は全く信頼できません！**

50 年という計画もまた破られることが今の時点で明らかな約束だ

原子力資料情報室 事務局長 松久保肇

むつ小川原開発が六ヶ所核燃サイクル施設に変わったように、原子力船むつが解役後も、核のごみの行き場がないように、2010 年に 16～18 基で利用するはずだった MOX 燃料が 4 基しか使われていないように、そして六ヶ所再処理工場が着工から 30 年以上たった今も完成しないように、核のごみの後始末や核燃料サイクルはつねに計画倒れに終わってきました。

むつのリサイクル燃料備蓄センターがリサイクル燃料と主張している通り、使用済み燃料はすべて再処理が前提とされています。ですが日本の原発は老朽化が進んでいます。寿命を延ばしたところでいずれ廃炉

を迎えます。新設もコストが高すぎて出来ても数基でしょう。リサイクルしても消費できないのです。

リサイクル燃料備蓄センターの最大の存在意義は、満杯になれば運転できない原発の使用済み燃料プールの空き容量を作ることです。原発を運転すれば使用済み燃料は必ず発生します。すでにプールから搬出された燃料が優先的に再処理されることはないでしょう。リサイクルされるはずの使用済み燃料は宙に浮いたまま漂い続けることになります。50 年という計画もまた破られることが今の時点で明らかな約束だと言えます。

連帯メッセージ

さようなら柏崎刈羽原発プロジェクト 小木曾茂子

東京電力は、4 月 15 日東京電力は、再稼働に関する地元合意もないまま、柏崎刈羽原発 7 号機に核燃料を装填しました。先立つこと 1 週間前、私たち「さようなら柏崎刈羽原発プロジェクト」は原発に出かけ、燃料装荷を止めるよう申し入れました。

現在 7 号機の使用済みプール所蔵量は 97% であり、1 サイクル分の空き容量がない状況です。燃料は運んだものの、何か事が起きて対処しようがないのです。号機間移動も計画されていますが、1～5 号機は規制基準に合格しておらず、運び込みはできないのではないかと質問しています。むつ市の中間貯蔵施設への移送は、2024 年度に 1 基、2025 年度に 2 基、2026 年度に 5 基を運ぶ計画をリサイクル燃料貯蔵に示し、青森県とむつ市に説明をしている、と説明しています。

そもそも、新潟では地元合意のない燃料搬入であり、青森では地元との安全協定の議論もない中での計画です。何をそんなに焦っているのか、と問いただしたくなります。

新潟日報が 4 月に県議会議員にアンケートを行ったところ、53 名中再稼働を認めるとした議員は 3 名、認めないは 28 名（53, 8%）となりました。また、知事が県民の意思を問う方法については、県民投票という声が 13 名と最多となっています。県民投票という声は、県選出の国会議員たちからも上がっており、実現の可能性も出てきたと考えています。使用済み核燃料に関しては、再処理が破綻している現在、むつ市へ運ぶ合理性は一つもなく、今こそ、立ち止まって国民的議論をする必要を共に訴えていきたいと思っています。共に頑張りましょう。

原発の延命に繋がる使用済み核燃料搬入絶対反対！！

浜岡原発を考える静岡ネットワーク事務局長 沖 基幸

「ふるさと・青森を核のごみ捨て場にさせない！」と熱い思いで結集した皆さんに敬意を表すと共に静岡・浜ネットよりメッセージを送ります。

浜岡原発は菅直人元首相の要請で全停止してから 13 年。その危険性を事業者である中部電力自らも認めています。この間、御前崎市長など推進派は「再稼働すれば金が入る」と相変わらずの原発依存体質を堅持し続けています。その結果、市財政はひっ迫し、来年度には交付金を貯めこんだ基金も底をつく危機的な状況になっています。他方市民の一部には電気料金が下がると騙され、危機意識も失われ、「あるものは使うべき」と再稼働を容認する声上がる残念な状況もあります。

能登半島地震はこのような人達に警鐘を鳴らすものとも言えるのではないのでしょうか。

現在静岡では自公政権についてハッキリと自分の意見を言う数少ない県知事が任期一年を残して辞任し、県知事選が行われています。浜岡原発の貯蔵プールが間もなく満杯で行き場がない状況に前知事は「使用済み核燃料の処理の目途が付かなければ再稼働に同意しない」と発言していました。危険な使用済み核燃料をこれ以上に増やすことになる原発の再稼働を認めることはできません。原発の延命に繋がる青森への使用済み核燃料の搬入は許すことはできません。子や孫の明るい未来の為に原発の無い社会の実現を目指し、皆さんと共に運動を強めていきます。

そのほか、多くのみなさんからショートメッセージをいただきました

とめよう戦争への道！百万人署名運動事務局

「5.19 使用済み核燃料搬入反対現地集会」に賛同します。参加は難しいのですが、原発再稼働反対！むつ中間貯蔵施設への使用済み核燃料搬入反対の現地の闘いに連帯します。共にがんばりましょう！（少なくて恐縮ですが、カンパ 2000 円を別途振り込みます）

放射能汚染水流すな！千葉県実行委員会

むつ中間貯蔵施設への使用済み核燃料搬入反対現地集会に賛同いたします。私たちの運動は、5月15日に Zoom で中道雅史さんより現地報告をいただき、千葉県の運動体でも取り組みたいと考えております。よろしくお願いいたします。

櫛淵秀人

5・19 闘争を断固支持いたします。現地闘争には健康状態で参加出来ませんが皆さんと共にあります。共に闘いましょう！

とめよう！東海第二原発首都圏連絡会

5.19 使用済み核燃料搬入反対現地集会に賛同します。頑張ってください。

すべての原発いまずぐなくそう！全国会議

日本政府が明確に戦争や核武装へと舵を切る中で、3・11 をなきものにし、原発再稼働ラッシュへ突き進んでいます。核燃サイクルは、原発の再稼働、日本の核武装政策の最大のアキレス腱です。「青森を核のゴミ捨て場にするな」は原発・核のない未来を勝ち取るスローガンになりました。ともに頑張りましょう。カンパも送ります。

原発はいらない西東京集会実行委員会

当会のメンバー小熊ひと美さんが青森に移住され、原発 NO！の意思表示の行動を続けていらっしゃいます。青森が抱える問題が以前より近く感じられるようになりました。連帯していきたいと思えます。「5.19 使用済み核燃料搬入反対現地集会」に賛同します。《一言：再稼働への玉突き策動は許しません！》

田中一郎

前略、賛同します、(ひとこと) 柏崎刈羽原発の核のゴミを青森県に押付けるな！東京電力に柏崎刈羽原発を再稼働する資格なし。いつまで原発をやっているのか！

『はんげんぱつ新聞』 西尾漢

「5.19 使用済み核燃料搬入反対現地集会」に賛同します。現地には行けませんが、思いは同じです。

とめよう戦争への道 百万人署名運動千葉県連絡会

「むつ中間貯蔵施設への使用済み核燃料搬入反対現地集会」へ賛同いたします。4月の「反核燃の日」行動は千葉から参加いたしました。今回は参加できませんので、賛同・カンパいたします。5月、千葉の街頭で中間貯蔵施設の問題を訴えます。よろしくお願いいたします。

とめよう！東海第二原発首都圏連絡会

カンパ 2000 円振り込みます。「東海第二原発の40年延長運転」認可を期に結成された首都圏の会です。日本原電は、9月再稼働を目指していましたが、防潮堤工事に欠陥が発覚し、工事が止まっています。私たちは欠陥工事の原発の廃炉を求めています。このようないいかげんな事業体が東電と共同で核のゴミを下北半島に捨てる行為を許すわけにはいきません。

2024 六ヶ所ピースサイクル

カンパ 2000 円振り込みます。今年で 30 回目の六ヶ所ピースサイクルを呼びかけています。柏崎刈羽原発を動かすために、使用済み核燃料をむつに搬出するなど許されません。微力ですがピースサイクルは今年も自転車で「再処理反対、下北半島を核のゴミ捨て場にするな」ののぼりを掲げ、走り続けます。アピール行動を行います。

若狭の原発を考える会

果敢な闘いを、ありがとうございます。

「5.19 使用済み核燃料搬入反対現地集会」に賛同いたします。「使用済み核燃料の発生源・原発」をなんとしても全廃したいと考えます。

・使用済み核燃料の行き場はありません。使用済み核燃料を保管する燃料プールは、もうすぐ満杯です。満杯になれば、原発運転は不可能です。乾式貯蔵や青森への搬出によって、燃料プールに空きを作らせてはなりません。

・再処理工場を廃止に追い込めば、使用済み核燃料は「資源ではなく、核のゴミ」になります。

核燃サイクルを破綻させ、原発全廃を勝ち取りましょう！

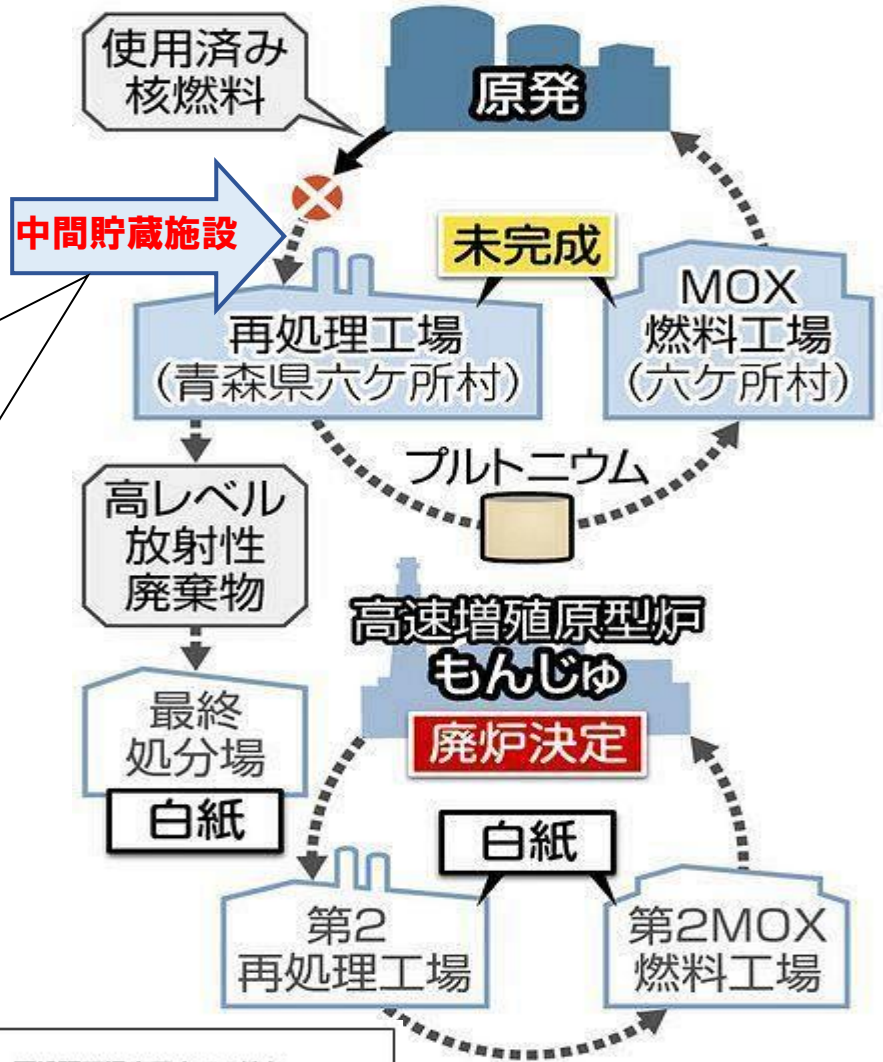
勤労総連合水戸

「5.19 使用済み核燃料搬入反対現地集会」に賛同します。地震大国日本に原発はいりません。全ての原発、核兵器につながるものに反対します。

核燃料サイクルの現状

結局は中間貯蔵施設だけが原発再稼働の**命綱**

中間貯蔵施設は
猛毒プルトニウムを含む
核のゴミ捨て場なんですが…



9月完工延期不可避

再処理工場 審査終了めど立たず

日本原燃が2024年度上期（9月）とする使用済み核燃料再処理工場（六ヶ所村）の完工目標の期限まで残り5カ月を切った。増田尚宏社長は今年に入り、具体的な完工時期としてきた6月を撤回、事実上3カ月先送りしたものの、道は依然険しい。原子力規制委員会による審査終了のめどは立たないままで、電力業界界隈は支援を受けてもなお、延期は不可避な情勢だ。（塩田修平）

5/12
デーリー東北

再処理工場完工までの流れ	
2020年7月	◆新規制基準適合性審査に合格
20年12月	◆2分割したうち第1回の設工認審査を申請
22年9月	◆22年度上期の完工延期を発表
22年12月	◆原子力規制委員会が第1回設工認を認可 ◆完工目標を24年度上期のできるだけ早期（6月）と発表 ◆最終の第2回設工認を申請
24年1月	◆できるだけ早期の具体的な時期を6月から9月に事実上先送り
	◆設工認の認可
	◆使用前事業者検査、使用前確認
	◆完工



「核の中間貯蔵はいらない！下北の会」からのお願いです

- ◆みなさんからのインターネット署名を集めています。
- ◆紙ベースの署名も集めています。
- ◆活動資金カンパも募っています。

ネット署名用

署名用紙ダウンロード

《振込先》 ゆうちょ銀行：普通預金：店名：八四八

口座番号：0830170

名義 核の「中間貯蔵施設」はいらない！下北の会



集 会 宣 言

去る3月末に建設中の使用済み核燃料むつ中間貯蔵施設へ本年度第2四半期中にも操業を開始する計画が事業者や親会社から示されました。

しかし、立地協定で明記されている50年保管後の搬出先は全くそのメドが立っていません。

当時の住民説明会や2005年5月16日開催の県議会全員協議会等において、国および東京電力は1994年6月の国の原子力長期計画に示されている第二再処理工場としておりましたが、今やその計画のみならず、文言すら政府のどの機関にも存在しません。

また、六ヶ所再処理工場も当初竣工時期を1997年12月としながら、今日まで26回延期し、その時期はいまだに不透明で核燃サイクル構想のズサンさと無責任体質は全く信頼に値しないことを国と原子力事業者自らが証明しております。

ましてや再処理後のプルトニウム利用計画も全く存在せず、50年後に搬出するとの具体的根拠は全く見当たりません。

使用済み核燃料は、再処理しなければ地層処分されるべき高レベル放射性廃棄物であり、多くの原発立地自治体は、原発敷地内への長期保管はそのまま永久貯蔵となるとして乾式貯蔵を拒否しています。私たちとしても、こうした行き場のない状態のままで本施設の稼働を認めるわけにはいきません。

今や使用済み核燃料の全量再処理はもとより核燃料サイクル事業自体が絶望的なことは誰の目から見ても明らかです。中間貯蔵施設は核燃料サイクル事業のサイクルの一環であり、本施設だけが先行して操業させることはあってはならないと考えます。

そうした意味でも少なくとも現時点で確実な搬出先を国や青森県、むつ市は安全協定に明文化すべきであります。また、政府が核燃料サイクルや全量再処理を断念した時点では直ちに貯蔵期間内でも撤収させることを明確にすべきです。

使用済み核燃料収納キャスク1基には広島型原爆2発、長崎型原爆13発分の放射能が詰まっています。もし計画通り5000トンが搬入されるならば原爆6300発分に相当します。こうした核のゴミがむつ市に集積されることになります。ふるさとが「核のゴミ捨て場」にされた場合の怖さや不安がますます増大するばかりです。この不安、疑念を子どもや若者に引き継ぐべきではありません。私たちの時代で終止符を打ち、次の世代には安心して生活できる美しく豊かなふるさとを引き継ぐために全力を挙げて取り組むことを本集会で宣言するものです。

2024年5月19日 むつ中間貯蔵・使用済み核燃料搬入反対現地集会参加者一同

